

どくとくのひろば

No.
38

こころのひろば

宮崎を知り、宮崎大好きっ子を育む
楽しんで学ぶ、郷土かるた
「ひむかかるた」

[新井 克弥] 2

特別寄稿

文部科学省委託事業「不登校の
要因分析に関する調査研究」報告書
(2024年3月公表) から見えるもの

[和久田 学] 6

見てわかる！道徳

「伝統と文化の尊重、
国や郷土を愛する態度」(小学校)
「希望と勇気、
努力と強い意志」(小学校)

[越智 貢、奥田 秀巳、上村 崇] 8

実践事例【中学校3年】

自分の価値観を見つめ直すために
話し合う

[米澤 絵里子、島 恒生] 10

こんなコト、聞いてみました！

道徳教育推進教師は、どんなことを
すればよいのでしょうか？

[高山 慶] 14

地球の仲間からのメッセージ

羽色の秘密

[長瀬 健二郎] 15



日文のWebサイト

日文 🔍



こころのひろば



あらい かつ や
新井 克弥

Profile

ひむかかると協会 顧問

宮崎公立大学在職中の2005（平成17）年に大学の地域貢献プロジェクトの一つとして郷土かるた「ひむかかると」の制作を提案。以降、「ひむかかると」の普及活動に取り組んでいる。現在、関東学院大学教授

【ひむかかると協会】
<https://himuka-karuta.info/>

宮崎を知り、宮崎大好きっ子を育む 楽しんで学ぶ、郷土かるた「ひむかかると」



宮崎県の名所や歴史、偉人、農産物などがつづられた郷土かるた「ひむかかると」。県内の保育園や幼稚園、小学校などの子どもたちは、「ひむかかると」に親しんでおり、毎年、大会も開催されています。

「ひむかかると」の普及活動に取り組む、ひむかかると協会顧問の新井克弥さんにお話を伺いました。

郷土かるた「ひむかかると」を作ろうと思ったきっかけは何だったのでしょうか？

あまり知られていないんですが、宮崎県ってうどんがおいしいんですよ。柔らかいうどんに、いりこでとただしが相まってものすごくおいしくて。

1998年、宮崎公立大学に赴任したとき、東京出身の学生が「いいところに行きましょう。おいしいもの

を食べさせますよ。」ってうどん屋に連れていってくれたんですよ。そのことを地元の人に「宮崎県のうどんはすごいですね。宮崎県の文化ですね。」って言ったら、その人が何て言ったかという、「何言ってるんですか。うどんはただのうどんです。」って。

自分の中にあるものが自覚できている状態を哲学用語で、対自化っていうんです。

つまり、宮崎県の人たちは、自分たちの文化に対す



「ひむかかると」の絵札と読み札 左/宮崎県産の完熟マンゴー、右/全国初の女性小学校校長、鳥原ツル

る対自化がほとんどできていなくて、宮崎県の農産物や焼酎なんかを普通に食べて飲んでいるだけなのかと思ったのがきっかけの一つですね。

宮崎県の人たちに自分たちの文化について対自化を促したのが宮崎県知事、東国原英夫氏です。当時、彼がやったのは、トップセールスをして宮崎県の農産物や焼酎などをテレビ番組なんかで全国に発信し、その認知度を高めたんですね。そういった発信で、宮崎県の人たちは自分たちがふだんこんなすごいものを食べているんだって自覚したんですよ。

あと、もう一つ言っておくと、実は「ひむかかると」を思いついたのは、私が中学時代の3年間、群馬県にいたからなんですよ。群馬県に引っ越したら、親がいきなり「上毛かるた」*1を買ってきて、「群馬県の人たちは、みんなこのかるたで遊んでいるから、やっておけ。」と言われて(笑)。

「上毛かるた」は、群馬県の歴史や文化、自然、偉人、産業などが全部網羅されているんですね。だから、「上毛かるた」をしている人たちの頭の中に郷土が刷り込まれているんですよ。

これは社会学でいうと、ベネディクト・アンダーソンの「想像の共同体」っていう考え方なんです。

我々は国家や国民であるということをイメージとしてしか理解できない。そうすると、国家や地域も何らかの形でメディア的に媒介されたものでイメージしないう限り想像できない。私たちが国家を国家として意識するのは、実は実際の国家ではなくて、共有されたイメージとしての概念なんだと。

郷土かるたは、その縮小版としてやる中で地域のイ

メージを作り上げている。それをものすごく強靱な形で作っているのが「上毛かるた」なんですね。

その後、「ひむかかると」の制作はどのように進んだのでしょうか？

300程度の題材案のリストを作って読み札を募集したら、子どもたちから1万くらい集まったんですよ。その中から46の読み札を識者の方々と選びました。その際、全国各地のかるたを収蔵している大牟田市立三池カルタ・歴史資料館からデータを提供してもらって、特に普及しているかるたはどういった題材がどういう割合で取り上げられているかを調べました。

「ひむかかると」は、その調査結果に準じた形にしたんですよ。しかし、最終的にあるジャンルの題材数に偏りを作りました。

偏りを作ったのは、なぜですか？

宮崎県は、全国でも有数の農産物の生産が盛んな県なので、食べ物の題材を増やしました。ピーマンやマンゴー、日向夏、しいたけ、宮崎牛とか11くらいあるんですよ。

偉人も7人ほど選びました。全国的に有名なのは、小村寿太郎や石井十次、若山牧水とか。

観光地としての「南国宮崎」を作った岩切章太郎や全国初の女性小学校校長になった鳥原ツルという人物も取り上げました。鳥原ツルは、宮崎県でもあまり知られていない人でしたが、話し合っただけでぜひ入れようということになりました。

郷土かるたの絵札は、1人の絵描きに描いてもらう

*1 「上毛かるた」は、1947年に誕生した郷土かるたで、70年以上にわたり、群馬県民に広く親しまれている。



「ひむかかると大会」の様子



大会で読み札を読む、読み手（上）と審判（下）

ことが多いんですけど、「ひむかかると」は作る過程も周りの人たちの巻き込みという形だったので、全て募集で子どもたちに描いてもらいました。

ふだん、子どもたちが「ひむかかると」でどのように遊んでいるのか教えてください。

「ひむかかると」を「昔の遊びクラブ」や「ひむかかるとクラブ」といった小学校のクラブ活動で使ってもらうのが一つ。それからもう一つは、先生が教材として使う。一例を挙げると、小学校社会科4年の地域学習の教材として「ひむかかると」を使っています。「ひむかかると」を使うと、子どもたちが熱狂して遊んでくれるんですよ。

協会では、子どもたちに「ひむかかると」をもっと好きになって、学んでもらうために、園児や小学生を対象とした、「ひむかかると」の大会を開催しているそうですね。

小学生の部では、「ひむかかると交流戦」と「ひむかかると大会」をそれぞれ年1回開催していて、園児の部では、「ひむかかるとフェスタ」を年1回開催しています。

「ひむかかると大会」は、2024年で16回目の開催になりました。この大会には、9校63名の子どもたちが参加してくれました。以前、多いときは25校くらいが参加してくれていた年もあったんですが、だんだんと減ってきて。特にコロナ禍でガーンと減った

んですけども、今はもち直しつつあります。

また、大会の運営は、かつての大会参加者だった中学生や高校生が協力してくれて、読み札の読み手や審判をやってくれています。

保育園や幼稚園などでの「ひむかかると」の使い方新井さんの意図したものとは違って、それがおもしろいそうですね。

以前、保育園や幼稚園の先生方に、「ひむかかると」についてのアンケートをお願いしたんですね。すると、「幼児は、かるとに書いている言葉や数字にまず興味をもつ。」と回答していた園があって。たしかに、そのくらいの年齢の子もだったら、遊びを通じて、そういうことに興味をもつんだなって感心しました。

競技で団体戦をやる場合、ルールの理解や戦略が必要になってきます。そういうことって小さな子どもたちには難しいですよ。

だから、いいコーチがいる幼児向けのサッカー教室だと、ゴールキーパー以外のポジションをなくして、みんなでボールを追いかけるんですよ。まずはサッカーに親しむというか。

学習理論でいくと、まずはそうやってなじませて、一定の年齢になってくると、そこから今度はルールや戦略を教えるようになっていく形なんですけれども。保育園や幼稚園の先生方はその辺のことがよく分かっていて、例えば、かるとを大きな声で読んで朝の発声練習に使うとかね。

ある幼稚園は「ひむかかるとフェスタ」に参加しても、別に優勝しなくていいって言うんです。かると遊びをやってみて、楽しむことが目的だからということ。

もちろん、公式ルールで子どもたちに「ひむかかると」をやらせる園もありますけどね。

ほかには、かると遊びを通して子どもたちに礼節を学んでほしいということで、競技前に対戦相手へときちんとあいさつをさせる園もあります。

また、ある園では、年長の子どもたちが「ひむかかると」をやっていると、年少の子どもたちがそれをじっと見ていたんですね。すると、年長の子どもたちが年少の子どもたちに声を掛けて、かると遊びに入れてあげて、いわゆるグループワークのまねごとをする様子も見られました。

こちらが理論的に想定していたものとは全く違うことを保育園や幼稚園の先生方が始められたので、こちらが逆に教えられたって感じでした。



「ひむかかると」で遊ぶ園児

「ひむかかると」やこれからの宮崎県の子どもたちについて、どのような願いがありますか？

「ひむかかると」には、ある3枚の札を取ると7枚プラスになって10枚に化けるっていう「役札」というものがあるんですね。その中に「フェニックス 高く大きく たくましく」「楽園彩る 南国気候」「自然が元気 地域が元気 みんな元気」という札があって。これ、全て精神性をうたった内容なんです。

「フェニックス 高く大きく たくましく」は、表向きは「フェニックス」を表現していますが、これは「宮崎県の子どもたち」を表しているんですよ。「宮崎県の子どもたち」は、高く大きく、たくましくになってほしい、という願いが込められているんです。

「自然が元気 地域が元気 みんな元気」は、宮崎県

は自然と人が一体となって育まれてきた、未来の宮崎県を作るのは「みんなの元気」なんだよ、という願いが込められているんですね。つまり、これらは全て個に還元している内容なんです。

「ひむかかると」で遊べば、宮崎県のことをみんな分かりますよ、ではなくて、こちらとしての思いは、子どもたちに「ひむかかると」の47枚目を作ってほしいということなんですよ。

文化っていうのは、固定したものではなく、どんどん変容していくのが文化社会学的な発想のはず。逆に変わっていかないものは、おかしいわけですよ。

だから、郷土かるとは、47枚目、48枚目を作るためのきっかけにしてほしい。子どもたちには、成長して大人になったら、新しい札に変わるようなものを作り出してほしいと願っています。



「ひむかかるとフェスタ」の様子

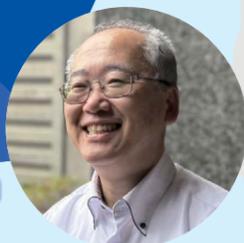


日本文教出版『しょうがく どうとく いきるちから 1』では、かると遊びを通して宮崎県のよさに気づく子どもの姿を描いた教材「ひむかかると」を掲載しています。



文部科学省委託事業「不登校の要因分析に関する調査研究」報告書 (2024年3月公表)から見えるもの

公益社団法人 子どもの発達科学研究所 所長・主席研究員 和久田 学



1 はじめに

この数年、不登校が激増しています。文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、今から10年前、平成26年度の不登校の児童生徒の割合が小学校で0.39%、中学校で2.76%であるのに対し、令和4年度の不登校の児童生徒の割合は、小学校で1.70%、中学校で5.98%になっています。つまりこの8年の間に不登校児童生徒の割合は、小学校で約4.4倍、中学校で約2.2倍になったことを意味しています。

では、なぜ子どもたちは不登校になってしまうのでしょうか？

文部科学省の調査では、不登校の主たる要因について調べています。その結果、「無気力・不安」とされたものが全体の51.8%だったとのこと。ただこのことについて、「無気力・不安だったとしても、その無気力・不安の理由があるのではないか？」との疑問が出され、さらには、実際に不登校の子どもを対象にアンケート調査をした結果とのかい離も指摘されているところです。

そうした流れを受け、子どもの発達科学研究所は、文部科学省の委託を受け、不登校に関連する要因を明らかにするために、調査を行いました。

今回、私たちの研究グループが、最もこだわったのは科学です。例えば、今回の調査は事実ベースで調査を行いました。教師に対して「(対象児の)不登校の原因はなんだと思いますか？」と聞くのではなく、対象児について、いじめの被害、学力の低下など、教師が事実だと認識していることを聞きました。それから、不登校の児童生徒だけでなく、不登校でない児童生徒からもデータを取得しました。なぜなら、不登校児童生徒の特徴は、不登校でない児童生徒と比較してみなければ分からないからです。

さらには、教師、児童生徒、保護者の三者に回答を求めました。それは教師に見えていることがはたして

児童生徒の実態を捉えているのかどうかについても、明確にしなければならないと考えたからです。

調査結果は、子どもの発達科学研究所のWebサイトからダウンロード可能ですので、そちらを参照していただくとして、ここでは注目すべき結果についてご紹介しましょう。

2 教師に見えることは限定的

教師、児童生徒、保護者の回答結果を比較したところ、教師回答と児童生徒回答のずれが非常に大きいことが明らかになりました。特にいじめ被害、教師との関係性(トラブル、叱責)、メンタルヘルスや体調の変化などはずれが顕著であり、教師が不登校に関連する要因、予兆を捉えることが難しいといえます。

これは決して教師に問題があるということではありません。もともと、教師は学級集団を基本として子どもたちの指導に当たります。そのため、一人ひとりの実態や教育的ニーズを細かく捉えて対応することには、難しい一面があり、この調査結果は、そうした教師の限界を示していると思います。よって、文部科学省のCOCOLOプランにあるように、1人1台端末等を利用し、子どもたちのリスクを捉える必要があるでしょう。ただし、子どものリスクを捉えることは非常に重要であることから、その仕組みが信頼に足るものなのか(正しく子どものリスクを捉えられるというエビデンスがあるのか)、リスクを捉えた後、適切な対応ができるのかまで考える必要があります。

※注：COCOLOプラン…2021(令和3)年に取りまとめられた「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」のこと。

3 不登校に関連する要因から考えられる対策

不登校に関連する要因は、「人間関係の調整」「学習支援」「学校風土の向上」「メンタルヘルスへの支援」「発

達障がいなどの背景要因への支援・配慮」の5つにまとめられることが分かりました。この中から、まずはCOCOLOプランでも強調されている「学校風土の向上」について説明しましょう。

学校風土については、世界ですでに100年以上も前から注目されています。学校風土の向上は、不登校、いじめ、子どもの暴力などの予防、学力の向上に関連があることが明らかになっているだけでなく、教師のメンタルヘルスの安定、離職率の低下とも関連があるといわれています。

これまで不登校というと、不登校になった子ども、そうしてしまった家庭の問題を指摘されることが多かったように思います。しかし、多様性を認める今、子どもや家庭の問題を指摘するのではなく、そうした子どもの教育的ニーズに対応しきれなかった学校の在り方(学校風土:教師の行動、授業、ルール設定など)について議論する必要があります。

また、これまでの多くの研究により、「教師の評価する学校風土と、児童生徒が評価する学校風土には違いがある」ことが分かっています。つまり学校風土についても、教師に見えていることは限定的であり、だからこそ今回のように、児童生徒の声を聞かなければなりません。

そうしたことから文部科学省は、学校風土の見える化を推奨していますが、今、学校現場で使われている調査の中には、学校風土のように見えて、実は児童生徒の学校生活満足度や適応の状態など、児童生徒の状況を測定しているものが多いことに注意が必要です。学校風土については、子どもの発達科学研究所が研究を続けていますし、学校風土を科学的に計測する調査を現場に提供していますので、ぜひそちらも参照してください。

いずれにしても、学校風土は非常に重要です。私たちにとって「当たり前」であった学校の在り方、例えば授業のやり方、教室環境、日課、無意識のうちにある考えなどについて、意図的に見直しを行う必要があるといえるのです。

4 学習支援の問題

不登校の児童生徒のうち、「授業が分からない」と回答した者は47.0%でした。不登校でない児童生徒の場合は35.4%であり、「授業が分からない」は不登校に関連することが明らかなのですが、ここで考えてみていただきたいのです。

教師の仕事の中心は、授業です。その「授業が分からない」ことが、子どもを不登校に追い込んでいた

事実には驚きませんか？そして、不登校でない子どもであっても、その35.4%、すなわち約3人に1人が「授業が分からない」としているのです。

さらに細かく見ていくと、「成績が下がった」と回答した者は、不登校の児童生徒の37.9%、不登校でない児童生徒の41.6%。このことについては、不登校の児童生徒もそうでない児童生徒も変わらない(その違いに統計的有意差はない)状況にあります。

どうやら学習支援および授業の問題は、全ての児童生徒にとって不十分である可能性が高く、それが不登校リスクを高めている(どの児童生徒も不登校になるリスクがある)と言えるかもしれません。

これまで多くの学校、教育委員会が「より良い授業」をテーマとして研修をおこなってきましたが、もしかしたら先生たちが考える「良い授業」は子どもにとっての「良い授業」と違っているのかもしれない。子どもを中心に、改めて「良い授業」を考え、実践することは、今の学校の大きな課題であるといえるのです。

5 おわりに

今回ご紹介したのは、不登校要因調査の結果のごく一部です。

不登校要因調査の結果は、学校が変わることを求めていると同時に、こうした科学的な調査の必要性を訴えているように思います。今回の調査により、やるべきことはある程度、明確になってきています。

まずは、この調査結果を十分に生かし、全ての子どもたちにとって居心地がよく、発達に資する学校教育の実現が求められると思います。

※文部科学省委託事業不登校の要因分析に関する調査研究 <https://kohatsu.org/20240325research-report/> は、子どもの発達科学研究所のWebサイトからダウンロードが可能です。
※さらなる研究結果や、この調査研究に基づいた不登校対策についてご興味がある方は、子どもの発達科学研究所のWebサイトをご覧ください。



道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。それらは密接に関わり合い、また競合する場合があります。ここでは、内容項目間の関係を分かりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

監修：広島大学名誉教授 越智 貢
共著：北海道教育大学准教授 奥田 秀巳
福山平成大学教授 上村 崇

今回のテーマ

「伝統と文化の尊重、
国や郷土を愛する態度」(小学校)
「希望と勇気、努力と強い意志」(小学校)

「見てわかる！ 道徳」で取り上げる
内容項目を募集します！
内容項目間の関係などについて、読者のみなさんが日頃気になっていることがありましたら、編集部までお知らせください。著者と相談のうえ「見てわかる！ 道徳」でそれらの内容項目を取り上げます。上の二次元コードからお気軽にご応募ください！ お待ちしています！！



国や郷土を愛する？

道徳科の学習指導要領では「国や郷土を愛する心をもつこと」(小学校3・4年および5・6年)の重要性が語られています。この記述に対して、当然のことだと考える人々がいる一方で、なかには反発する人々も見受けられます。戦前の愛国心教育やナショナリズムを復活しようとする意図があるのではないかと感じる声すらありません。

その声が正しくないこと、つまり国や郷土を愛することに排他的な意味が込められていないことは、それに続いて、他国の尊重や世界の平和などを求める国際理解や国際貢献の記述が展開されることから明らかです。では、いったい国や郷土への愛とはどのようなものなのでしょうか。今回はこの問題に焦点をあてることにしましょう。

私たちのよりどころ

初対面の人に自分を知らしてもらいたいとき、あなたは自分をどのように説明するのでしょうか。おそらく

は、どこで生まれ、どのような教育を受け、どのような趣味や特技をもち、どのような仕事をしているかを語るのでしょう。そうすれば、あなたが、特定の国の特定の地域で特定の言語を通して特定の文化に育まれて活動してきた人であることが分かります。それら、あなたを支え育んできた種々のものは、それらがなければ現在のあなたもいないという意味で、いわばあなたのよりどころともいえるべきものでしょう。

よりどころをもたない人はいません。たとえ、自分は心身ともに自立しているからよりどころなど必要ないと主張する人でも、あるいは逆に自分はデラシネ(=根無し草)であってよりどころなしにどこへでも流されながら生きていけるという人でも、彼らがそれぞれ多くのよりどころによって生まれ、形づくられた存在であることは否めません。とすれば、よりどころのない自立だけでなく、言葉の真の意味でのデラシネも観念の産物でしかないでしょう。デラシネを自称する人々も彼らの心のどこかに何らかのラシーヌ(=根)をもっているはずだからです。

実際、デラシネに近い生活を強いられた人々はそれぞれのよりどころを強く自覚せざるを得ませんし

た。ユダヤ人のように、長く国をもつことができず異国の地に住まざるを得なかった人々にとっては、国や郷土がなくても、宗教、歴史、民族文化、そして言語などがよりどころとなりましたし、現在、国や郷土から離れた生活を余儀なくされている難民たちにとっては、祖国の住み慣れた町や村に帰ることがなにより願いです。

つまり、国や郷土、そして伝統や文化は、自覚の有無を問わず、私たちそれぞれの大きなよりどころとなっています。「国や郷土を愛する心をもつ」という表現には、それぞれのよりどころを大切にしてほしいという想いが込められているのです。

よりどころが失われないために

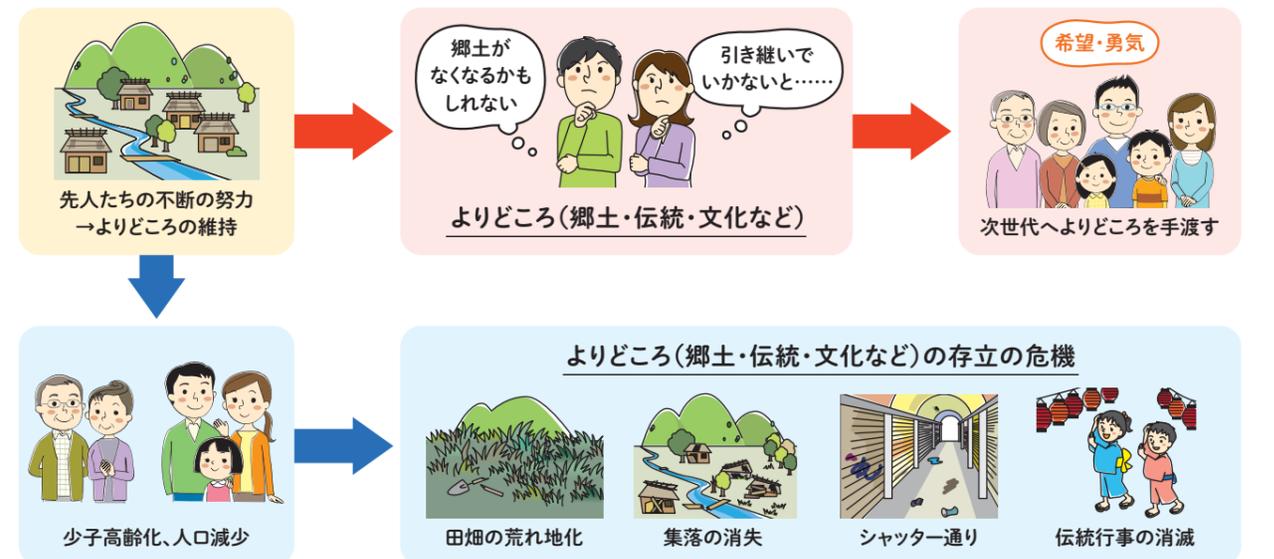
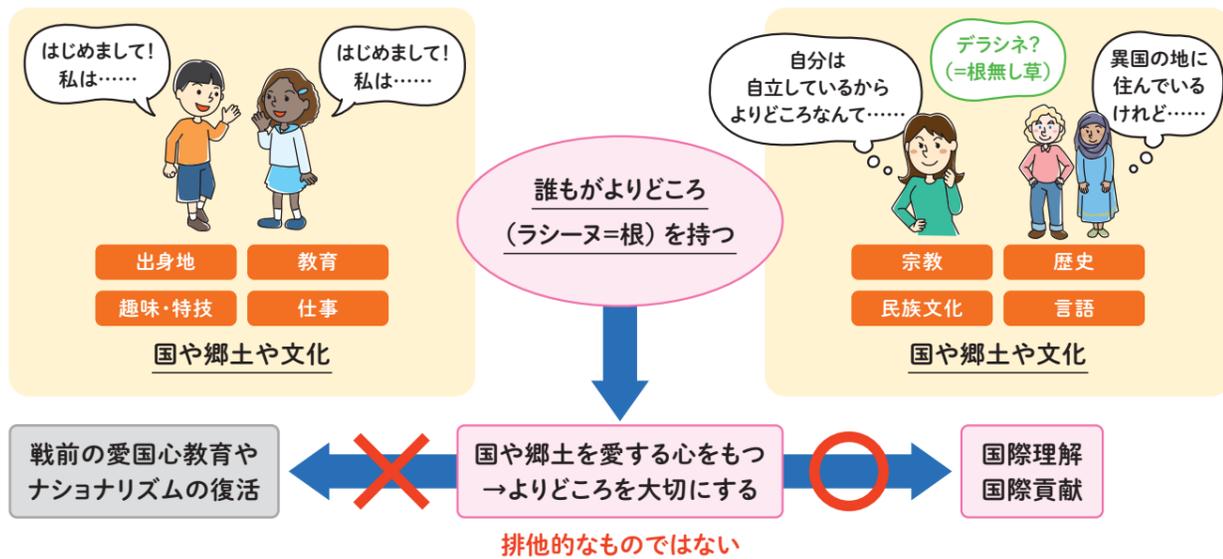
では、なぜ大切にしなければならないのでしょうか。理由は単純です。大切にしなければ、よりどころが失われることになりかねないからです。

国の存亡についてはおいておくとしても、郷土がなくなるかもしれないという不安はすでに多くの人々によって共有されているにちがひありません。そこに

住む人々がいなくなって、田や畑や集落が消え、荒地となった例は珍しくありません。地方都市で頻発するシャッター通りや祭りなどの伝統行事の消滅もすでにメディアの久しい話題です。集落が集落として、商店街が商店街として存続するためには、それらを大切に世話する人々が欠かせません。少子高齢化に伴う人口減少は、産業や経済の問題として語られがちですが、文化や伝統など、私たちのよりどころの存立を脅かす原因ともなっています。

このように、今あるよりどころが常に「ある」ものではなく、人々によって強い意志のもとで「維持され守られてきた」ものであることを忘れてはなりません。私たちが目にしている光景は全て名もなき先人たちの不断の努力の賜物です。

とすれば私たちには、私たちのよりどころが消えることを嘆く前に、先人と同じく、今あるよりどころを守り、それを次代の人々に手渡していく責任があるでしょう。今あるよりどころは、私たちがそうであったように、次代の人々が抱く勇気や希望のよりどころともなるはずだからです。



自分の価値観を見つめ直すために 話し合う

東京都大田区立馬込東中学校主任教諭 米澤 絵里子

教材名 違うんだよ、健司 (『中学道徳 あすを生きる 3』日本文教出版)

内容項目 B「友情、信頼」

主題名 本当の友情とは

ねらい 友情の尊さを理解するとともに、友達をよき理解者として心から信頼し、互いに励まし高め合い、協力し合おうとする実践意欲を育てる。

教材あらすじ 深入りせず相手に合わせる友達関係がよい、と考える「僕」だったが、思ったことをはっきり言う健司が新たに友人関係の輪に加わったことで、「本当の友情」について考えることになる。

① はじめに

道徳の教科化は、「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との、中央教育審議会答申(「道徳に係る教育課題の改善等について」平成26年10月)を踏まえた「考える道徳」「議論する道徳」への質的転換を図るものである。

しかし、目の前の生徒が、本当に主体性をもって「考え、議論する」ような授業ができているのか、ということについては、常に自問自答している。生徒が「正解だと思ふ答え」を先回りして考えるような表面的な授業とならないようにするにはどうすべきか。まずは、「道徳的価値の大切さは理解できるが、そうできない自分がある、それはなぜなのか。」というように、自身を見つめ、自己の価値観を明確にさせる、そして自己開示できるような授業が必要だと考える。それが実現できるような、指導方法の工夫と学級環境づくりを目指し、授業改善をしていきたい。

② 教材とねらいとする価値について

本教材の特徴の一つが「長さ・複雑さ」である。

本教材には3人の人物が登場し、3人を巡る複数のエピソードが描かれている。事前に教材を読み込んでいく教員と違い、生徒は長い教材を一度読んだだけで、発問について考えていく。そのため、授業を進めるにあたって、それぞれのエピソードにおける3人の言動を、生徒がしっかりと把握できるような工夫が必要である。また、複数のエピソード、発言の中から、何をどう焦点化して授業を進めていくかを、授業者が示すことも必要である。

また、本時のねらいとする内容項目は「友情、信頼」である。生徒にとって身近な課題であるが、友情の在り方に対する考え方は、それぞれ異なる。ほかの人の考え方と比較することで、改めて自身の価値観をしっかりと見つめ直させたい。また、他者の価値観に触れるときの他者とは、クラスメイトだけを指すわけではない。本文の登場人物の考えと自身の考えを比較することも、他者の価値観から学ぶことにつながる。

それらを踏まえて、本時の指導方法を工夫していく。

③ 本時の指導方法について

(1) 話し合いを設定する場面

話し合いを設定する場面は、中心発問に限らない。中心発問について他者の意見に触れることも、考えを深めることにつながるが、それ以外の場面で話し合いをすることのよさもある。

本教材では、図1に示したように、3人の登場人物がそれぞれ異なる友情観をもっている。そこで、主人公の「僕」の心情を捉えるのではなく、登場人物を分析的に捉え、それぞれの人物の言動について自分がどう思うかを考えることによって、自身の友情に対する価値観を見つめ直すような展開としたい。

そのため、展開の基本発問で話し合い活動を設定し、登場人物の考え方やクラスメイトの意見と、自分の意見を比較することで、自身の価値観を明確にする。

また、話し合い活動を通して出された生徒の意見を整理していくことで、「本当の友情とは」という本

時の主題につながる、本時の課題を焦点化していく。

(2) 話し合いの進め方について

道徳の授業の時間における話し合いの方法は、人数で考えると大きく2種類に分けることができる。

①学級全体での話し合い

→教員がファシリテーターを務めたり、生徒が相互指名で意見を交流したりして、話し合いを進める。教師が必要に応じて、その生徒や学級全体に問い返すことができ、話し合いの内容をより深めることができる。

②少人数での話し合い

→少人数グループで話し合う。全ての生徒に発言の機会をもたせられることが利点である。また、学級全体で発言することに抵抗がある生徒も発言しやすい。

いずれの方法にも、それぞれのよさがあり、目的

に応じて使い分ける必要がある。

本時は、展開の基本発問で「3人の友達との接し方や、友達に対する考え方で、共感できる場所、できないところはどこですか。また、それはなぜですか。」と問う。ここでは、生徒が感じたことを率直に話してほしいと考えるため、少人数の話し合い活動を設定し、感じたことを自由に出し合うように促す。

少人数での話し合いの後、自由に出し合った生徒の意見を整理したり、出された意見に対してどう思うかを再度生徒に投げかけたりして、学級全体で話し合いを深めるための時間を設定する。教師がファシリテーターを務め、足りない視点を補い、意見を整理し、問題を焦点化することで、生徒の発言から次の問いや主題につながる課題を引き出すことができる。

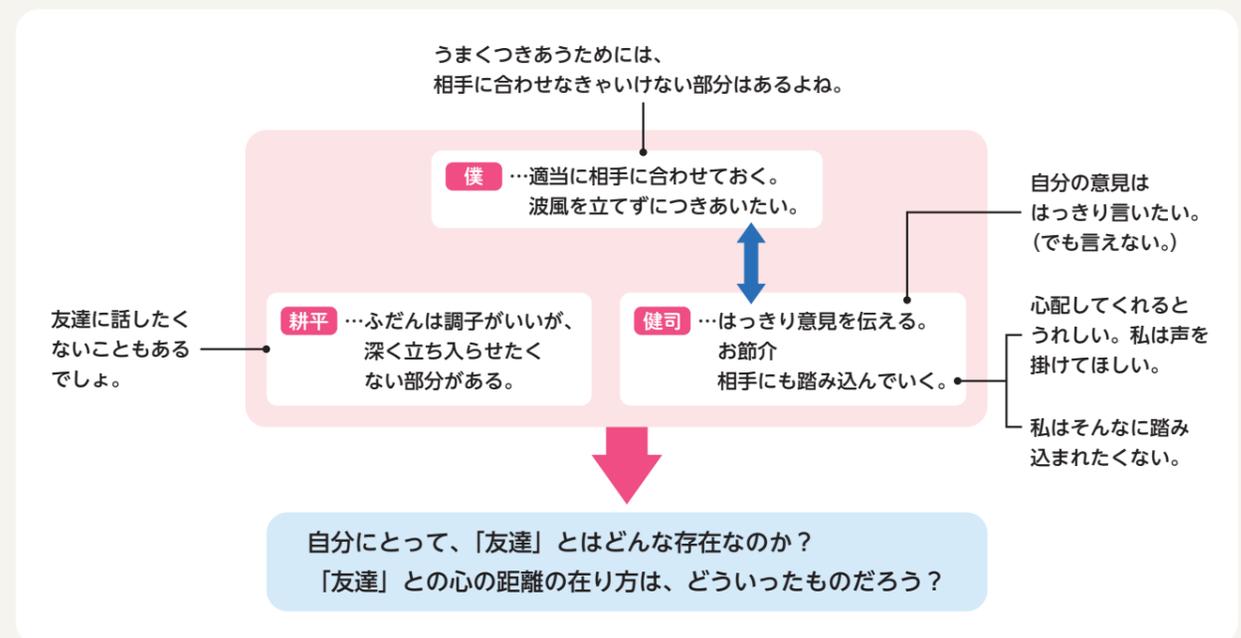


図1 登場人物の「友情」に対する考え方から生徒自身の友情観を明確にする流れ

畿央大学大学院教授
島 恒生 先生から



中学生の特質を踏まえた適切な対応がされています。「道徳的価値の大切さは理解できるが、そうできない自分がある、それはなぜなのか。」という投げかけは、中学生にはとても効果的です。中学生は、何が大切かは大人と同じように知っています。だから、教師が「これが大切だ。」などと言っても、分かりきったことなのです。この投げかけは、分かっているけどできない人間の弱さを、生徒と教師、生徒同士が、お互いに認めつつ、そのうえでよりよく生きていくための在り方を探るものとなります。

また、3人の登場人物がもつ異なる友情観を、生徒自らの友情観と比較させ、生徒同士の意見交流を行わせるなど、道徳科の課題の一つである登場人物の心情理解にとどまることのない工夫がなされています。中学生にとって、友情観はとても関心の高いものです。それなのに、真正面から自分の友情観を問われると、思わず心を閉ざしてしまいます。登場人物に自分を重ね、登場人物を通して互いの友情観を交流し、自らの友情観を客観的に見つめ、深めていくことのできる、よい工夫です。

	学習活動 (◎中心発問、○基本発問、・予想される生徒の反応)	◇指導上の留意点
導入	<p>1 自分の経験を振り返る。</p> <p>○友達がいてよかったと感じるのは、どんなときですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けてくれた。 ・相談にのってくれた。 ・一緒にいて楽しい。 <p>2 登場人物を説明する。</p> <p>○初めに、3人の登場人物を整理します。</p> <p>主人公「僕」 転校生の健司 (積極的、はっきりものを言う。) 主人公「僕」の幼なじみの耕平</p>	<p>◇友情のありがたさを感じるのには自分に何かをもたらしてくれるときであることが多いことをおさえる。</p> <p>◇登場人物を黒板に絵カードで示し、簡単に説明して、すぐに教材に向かわせる。ここでは「僕」に着目させる。</p>
	<p>3 教材「違うんだよ、健司」を読み、考える。</p> <p>○3人の友達との接し方や、友達に対する考え方で、共感できるところ、できないところはどこですか。また、それはなぜですか。</p> <p>【僕】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「適当に合わせるのが最高」というのは、合わせたほうがよいときもあるが、なんでも合わせればよいわけではないと思う。 ・耕平を心配していても、本人が話さないことをそれ以上聞いてもいいのか、悩んでいる部分は共感できる。 <p>【耕平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達には、深刻な悩みを話せないという気持ちは共感できる。 <p>【健司】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に対しても自分の考えをはっきり言えるところはすごいと思う。 <p>◎夏の大三角を見上げながら「僕」はどんなことを思ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のように、相手に合わせて、距離を保つのが友情なのではない。必要なときには、勇気を出して気持ちを伝えたり、自分から歩み寄りすることも大切だと気づいた。 ・正直な気持ちを伝え合えたことで、3人の友情を本当の意味で深めることができた。 ・大三角のように互いに支え合っている、というのが、友情の形なのだ気づいた。 	<p>◇発言が広がりすぎないよう、発問する前に、注目させたい登場人物の言動を文字カードにして黒板に示し、本文の内容整理をする。</p> <p>◇まずは4人の班で話し合ってから、学級全体で意見を整理する。</p> <p>◇「僕」の言う「合わせる」ということに対してどう考えるか。また、何かに悩む耕平に対する2人の言動に対し、生徒自身がどう感じたかを自由に出し合わせることで、本時の主題でもある「友情」の在り方について、生徒達自身の価値観を語らせるようにする。</p> <p>◇夏の大三角を見上げる前の3人の発言を取り上げ、耕平の「違うんだよ、健司」にはどんな気持ちが込められていたか、また、「僕」が気づいた大事なことは何か、といったことを踏まえて、中心発問を考えさせる。</p> <p>【補助発問】健司が教えてくれた「大事なこと」とはなんだろう。</p> <p>◇夏の大三角の意味も考えさせたい。夏の大三角の写真を黒板に貼ってもよい。</p> <p>◇道徳ノートに記述させてから、発表させる。</p>
終末	<p>4 本時の授業を通して、考えたことを振り返る。</p> <p>○今日の授業を通して、また、あなた自身の友達との関係を振り返り、友情について考えたことを書きましよう。</p>	<p>◇導入の「友達がいてよかった」と感じる時を振り返る。自分に利益や楽しみをもたらしてくれるだけでなく、自分が相手の人間性にひかれたり、相手と長くともにありたいと感じたりするような友情があるということ話す。</p>



(3) 展開の基本発問での生徒とのやりとりの一部
《4人班で、登場人物3人について考えたことを自由に話し合った後に、学級全体で意見を整理する。》

T 「僕」について、共感できるどころ、できないところはありましたか？ 自分で考えたことでも、グループの中で出された意見でもよいです。

S1 「お互い適当に合わせる」というところで、相手に多少は合わせるのは必要だと思う。

T どうして？

S1 そのほうが、お互い居心地がいいと思う。

S2 私は、なんでも友達に合わせ過ぎるのは駄目だと思うけれど、やっぱりそうしてしまうこともよくある。

T この「僕」の発言には、共感できると感じる部分があるんですね。でも、この部分って、共感できないという人もいませんか？

S3 ある程度は、自分の意見も言えたほうがいいんじゃないかと思います。友達になつたばかりだとお互い遠慮して合わせちゃうかもしれないけれど、思っていることを言わないと、つきあっていくうちにいつか「違うな」と思う日が来ると思う。

T なるほど。では、「僕」とは逆に、はっきりものを言ってしまう健司に対してはどう思いましたか？

S4 ああいうふうに友達に注意はできないと思う。

S5 でも、言えなくても心の中では思っているかな。

S6 健司みたいに、ズケズケはつきり言われると、それも嫌かなと思う。

T 健司の「注意する」ところにそう思うんですね。では、耕平の様子がおかしいな、というときの「僕」と健司の言動はどうでしょうか？

T 「僕」が、耕平に「それ以上何も聞いてはいけない。」と思ってもう何も聞かないことには、どう思いましたか？

S7 あっさりし過ぎていていると思う。悩んでいそうだし、もうちょっとぐらい聞いてあげてもよかったのかな。

S8 言いたくなさそうだったら、もう聞かない。

S9 というか、健司は人のことに踏み込みすぎだと思う。そんなに聞かれたくない人もいると思う。

T なるほど。耕平も、「僕」にそういうふうに関わられて、ちょっと驚いて、その後言葉を濁しましたね。耕平が、悩んでいることを友達に言わなかったのは、なぜでしょう。

S10 面倒なのかも。悩みを友達に説明するのって、説明してもどうなるわけでもないし。

T 面倒だから言わない、それだけでしょうか？

S11 恥ずかしいのかも。

S12 恥ずかしいっていうか、言いづらいんじゃない？

T どうして言いづらいんだと思いますか？

S12 家族のこととか、家の事情って、友達とかにはやっぱり言いづらいから。

畿央大学大学院教授
島 恒生 先生から



「友達に合わせる。」「はっきり言う。」「あえて踏み込まない。」「聞いてあげるべき。」「悩みを打ち明けるのは面倒」「恥ずかしい。」……。いろいろな方向から、友情観に関わる意見が出ています。しっかり関わりたいという熱い思いと、それに戸惑いや恥ずかしさを感じてしまう思いの間での葛藤が、授業記録から伝わってきます。だからこそ、このような道徳科の時間が大事なのです。

板書には、夏の大三角を見上げた「僕」の「自分の気持ちに正直に、本当の友達に。」「ずっと長くつきあえる友達でいたい。」といった思いが話し合われています。一生つきあいたいと思える、心から信頼できる友達を見つけた「僕」を通じて、生徒は、心の底から打ち明けて話せる友達のすばらしさや、友情には相手への尊敬と幸せを願う思いが基盤となることをみんなで考え合えたことでしょう。



こんなコト、聞いてみました！

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。
授業のヒントになったり、励みになったり。
これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

今回のテーマ

道徳教育推進教師は、どんなことをすればよいのでしょうか？



全教職員が主体的に取り組む 道徳教育の実践

静岡県駿東郡小山町教育委員会指導主事 高山 慶

道徳教育の推進を中心となって担う「道徳教育推進教師」の主な役割は、「道徳教育のカリキュラム・マネジメントを確立すること」です。すなわち、道徳的な視点に立って学校教育目標を具現化するために、自校で育てたい子ども像を明確にし、教職員が共通理解と共通実践をしていくために、かじ取り役としての任務を果たすということです。

小山町立足柄小学校では、次のように実践を進めています。

- ①全教職員で、道徳的な視点に立って、学校教育目標からつけたい力や目指す子ども像を熟議する。
- ②前年度の学校評価、子どもたちの実態などから、全教職員の共通理解のもと、重点内容項目を決める。
- ③重点内容項目を道徳的実践につなげるために、学校全体で教職員と子どもたちが主体的に取り組める指導内容や指導方法を共有し合う。

①熟議において、学校教育目標「金太郎のようなやさしく つよく たくましい子」の「やさしさ」とは、心の豊かさであり、自分も相手も大切に作る広い心などの意見が出されました。「つよさ」「たくましさ」とは、意志が強く、目標に向かって粘り強く取り組む心の強さ、自分の記録に挑戦しようとする体の強さなどが挙げられました。

②同校では、①で出されたつけたい力に迫るために、重点目標を以下のように捉え直しました。
「やさしさ」→ 子どもの心の余裕から生まれる → 「B 相互理解、寛容（低学年：B 友情、信頼）」
「つよさ」「たくましさ」→ 立ち止まって考えること

で育まれる → 「A 善悪の判断、自律、自由と責任」
ここまでを、道徳教育推進教師のコーディネートのもと、前年度末までに全教職員の共通理解を図りながら進めることが大切です。小山町教育委員会は、主催する「道徳教育推進研修」の中で、各校の学校教育目標と重点内容項目を客観的に見直す作業を通して、奔走役として関わってきました。



年度末の話合いの様子

③全学年が単学級である同校では、重点内容項目の学習時期をそろえ、全校体制で道徳の授業実践を進めていきました。全校で同じ内容項目について考えることで、指導の効果を高めるねらいがあります。

重点内容項目は道徳の授業の中だけでなく、全教育課程での取り組みと連携することで、道徳的実践意欲へとつなげることができます。同校では、「相互理解、寛容」月間を設定し、生徒指導部の目標に関連する内容を入れたり、全校集会では校長先生が関連する内容を話したりする試みをしています。特別活動部では、児童会の取り組みとして「よいこと見つけ」をして「相互理解、寛容」の気持ちを広げています。また、コミュニティ・スクールと連携して、地域の方とつけたい力を共有し、道徳的実践の場を地域へと広げていくことも目指しています。生徒指導目標や校長先生の話、授業だけでなく、学校や学級、地域での実践などが全てつながることで、子どもたちの道徳性の諸様相は、着実に育まれていくことでしょう。

同校が取り組み始めているように、目指す子ども像と教育課程を道徳的な視点で捉え直し、主体的に全教職員が共通理解のもと実践していくことで、Well-being を意識した学校運営につながります。そのために、教職員間の調整役として、教務主任などと連携し、教育課程を推進していくのが道徳教育推進教師の役割であると考えます。

地球の仲間からの メッセージ

獣医師、元大阪市天王寺動物園長
長瀬 健二郎



カザリキヌバネドリ（ケツアール）のオス

羽色の秘密

動物園の人気者というと、やはりジャイアントパンダやコアラでしょうか。以前はライオン、ゾウ、キリンが動物園の三種の神器といわれ、この3種がいればその施設は動物園と名乗ってもよい、とか、動物園を名乗るならこの3種は飼育しておかなければならないといわれていた時代もありました。でも、みなさんの動物に対する知識も増え、ヒトによって好みはさまざまになったかと思えます。特に女性は色鮮やかな鳥を好む傾向にある、というのは私の個人的な感想でしょうか。

かつて天王寺動物園の北園の一角に「小鳥の家」という展示室があり、中には色鮮やかな熱帯産の鳥が展示されていて若い女性に人気がありました。

なぜ、熱帯の鳥は色鮮やかなものが多いのでしょうか。その理由の一つはジャングルにうっそうと茂る植物の葉です。それらは少しでもたくさんの太陽の光を浴びようとびっしりと生い茂ります。その結果、ジャングルの中は光が遮られ、昼でも薄暗い環境になります。そのような中でも目立ってメスに気づいてもらえ



ファンボルトペンギン

るよう、オスの羽色は派手な色合いになると考えられています。もちろん目立つと天敵にも見つかりやすくなります。それでも生き延びているということが、とりもなおさずそのオスの豊かな生命力の証しであり、そのようなオスと結ばれると生まれてくる子どもたちも力強く元気に生き抜いていくことができる、という強烈なアピールになるのです。こうしてオスの羽色は派手な色合いになる方向に進化し、卵やヒナを守り育てる役割をもつ多くの鳥のメスの羽色は目立たないよう地味な色をしていると考えられます。

逆に一妻多夫で、メスの羽色が派手でオスは目立たないという生活様式をもつ鳥もいます。またメスとオスで協力して子育てをするタイプの鳥では羽色の差がないことが多いです。例えばペンギンがそうですね。オスもメスも同じ羽色ですから、外観でメスとオスを判別するのが困難な飼育係泣かせの鳥です。でも、ペンギンに共通するおなかが白く背中が黒っぽいという羽色も生きていくうえで重要です。獲物の魚を上から狙うときは、魚が見上げても明るい空の色にペンギンのおなかの白が溶け込んで気づかれにくくなり、下から狙うときは、反対に魚が見下ろしても深く暗い水の色にペンギンの背中の黒が溶け込んで見つけられにくくなるのです。

このように羽色が目立つ、目立たないというのは鳥が生きていくうえでとても大切なことなのです。

道徳セミナー 開催のお知らせ

各地で道徳セミナーを開催いたします。道徳の授業づくりを知りたい！学びたい！先生方をお待ちしています。奮ってご参加ください!!

島先生と考える!! 道徳セミナーin大阪

対面開催 参加費500円(税込)

2024年12月22日(日) 13:00~16:45(開場12:30)
大阪市内で開催予定

- 授業解説(小学校)
中野 浩瑞先生(兵庫教育大学附属小学校教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)
黒田 和秀先生(愛知県みよし市立北中学校教頭)*
- 授業解説(中学校)
藤原 有佐先生(京都市立伏見中学校教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)
黒田 和秀先生(愛知県みよし市立北中学校教頭)*
- 講演
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)
*…コーディネーター

島先生と考える!! 道徳セミナーin名古屋

対面開催 参加費500円(税込)

2025年1月12日(日) 13:00~16:45(開場12:30)
Tsudoico 名古屋駅前店

- 授業解説(小学校)
中野 浩瑞先生(兵庫教育大学附属小学校教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)
黒田 和秀先生(愛知県みよし市立北中学校教頭)*
- 授業解説(中学校)
藤原 有佐先生(京都市立伏見中学校教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)
黒田 和秀先生(愛知県みよし市立北中学校教頭)*
- 講演
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)
*…コーディネーター

第4回日文道徳セミナーin東北 ~考え、議論する道徳の授業展開~

対面・オンラインのハイブリッド開催

2025年2月8日(土) 13:00~17:00(開場12:30)
山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング

司会・講師 渡邊 真魚先生 日本大学工学部 教授
実践発表とトークセッションを行う予定です。
※申し込みは、1月受付予定です。

※内容等は変更になる場合がございます。申し込み等の最新情報は、弊社 Web サイトをご覧ください。

どうとくのひろば

読者アンケートに
ご協力ください!



よりよい広報資料をお届けするため、
先生のご感想、ご意見を左の二次元コードから
ぜひお聞かせください!

どうとくのひろば No. 38

日文教育資料 [道徳]
令和6年(2024年)10月4日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33743

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690